



Doing more  
with automotive  
manufacturing IT.

*Automotive manufacturing requires  
precision and flexibility.  
The IT solutions we developed  
to meet these needs have applications  
that extend far beyond  
the automobile industry.*



# CONTENTS



- 03 PHILOSOPHY
- 04 MESSAGE
- 05 SOLUTION
- 07 最新事例紹介
- 08 新規事業開発本部
- 09 エンジニアリング分野
- 11 コーポレート・ファイナンス分野
- 13 インフラ事業本部
- 15 管理本部

# クルマづくりのITに、 もっとできることを。

緻密かつ柔軟であることが求められるクルマづくり。  
そのなかで私たちが生み出したITソリューションは、  
きっと、さまざまな分野に活かすことができる。



代表取締役社長

北沢宏明

私たちを取り巻く環境はめまぐるしい変化を遂げており、  
その変化に速やかに順応し、より快適で安全な世の中を築くべく、  
ITのさらなる進化が求められています。

トヨタグループとしても、新しい働き方の定着や、  
次世代モビリティサービスの開発・実証の本格化など、  
DX・デジタル化が急務です。

私たちはトヨタグループのIT中核会社として、  
求められる役割を果たすとともに、技術力、生産性を武器に、  
情報を新しい技術とつなぎ、イノベーションに貢献します。

今後、AIを中心に技術はさらに進化していくなかで、  
より人間力の高い人材の育成に取り組んでいきます。  
そして、国際社会共通の目標であるカーボンニュートラル、  
SDGsの実現に向けた取り組みも一段と加速させ、  
世の中のためになる真のITカンパニーを目指してまいります。  
今後とも、ご支援・ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

# ITで、 クルマと交通インフラの 快適な未来へ。

トヨタシステムズは、  
クルマづくりや新たなモビリティサービスの  
プラットフォームをITで支えます。

## クルマづくり

### 生産性・競争力の向上

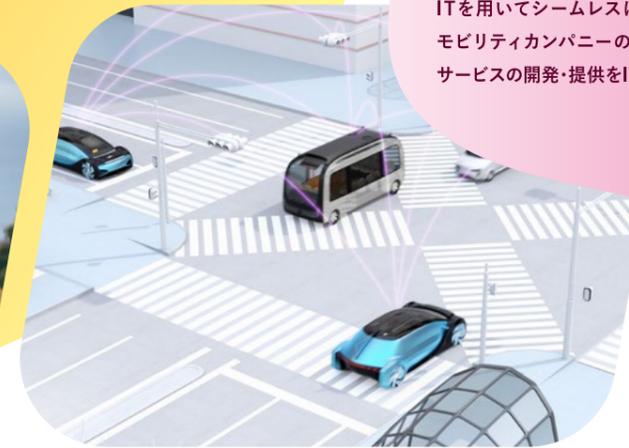
500万人以上が携わり、年間1,000万台を生産。  
出荷額は全製造業の20%を占める60兆円。  
日本経済の主役である自動車の開発・生産をITで  
支えます。



## MaaS

### ITによる移動の最適化

「Mobility as a Service」。さまざまな移動手段に  
ITを用いてシームレスにつなげ、交通を最適化。  
モビリティカンパニーの「移動」に関わるあらゆる  
サービスの開発・提供をIT技術で支えます。



## CASE

### クルマの概念の大変革

「Connected、Autonomous、Shared、  
Electric」。新たな仲間づくりと社会課題の  
解決をキーワードに、モビリティの未来を  
IT技術で支えます。



## 街づくり

### コネクティッドシティの実現

クルマと街の融合、社会全体をつなぐ  
「WovenCity (ウーブンシティ)」。技術や  
サービスの開発、実証などのサイクルを回し、  
新たな価値、ビジネス創出をIT技術で支えます。



お客さま目線での提案と抜群の技術力で、

最適なITソリューションを提供します。



PLAN

### 計画立案からの共創

経営課題などを現地でリサーチし、お客さまとともに  
方針・計画を立案。ゼロからともにつくり上げていきます。



PROPOSAL

### 研ぎ澄まされた最適な提案

要望や課題解決に向け、これまでの経験、ノウハウを活かし  
最適なITソリューションをお客さま視点で提案します。



BUILD

### 圧倒的生産性、ダントツの技術力

社内外の高い技術力を結集し、安心・安全・安価な  
ソリューションの構築をおこないます。



COMMUNICATION

### もっといいはとまらない

日々の活動、コミュニケーションを通じ、お客さまの要望、  
課題解決へ向けトータルサポートをおこないます。

# 最新事例紹介

## 新規事業開発本部

「ITシンクタンク」として先端技術の研究開発をおこない、技術提案や自らの技術力向上に取り組む。

- 1 世界初の車載電池の劣化度診断技術で、電池の再利用や、よりよいサービスを。
- 2 高齢ドライバーの運転支援のために、運転行動から認知機能の低下を検出。

## エンジニアリング分野

最高のITサービスと技術で、トヨタ自動車のクルマづくりを支え、モノづくりの未来をつくる。

- 1 機械学習で塗装品質を塗る前に推定。世界初の技術で新色を素早く世の中に。
- 2 xRを活用した次世代のモノづくりで、さらなる生産性向上の実現へ。
- 3 丸1日必要だったCAEを、独自技術の機械学習で数秒に短縮。
- 4 クルマや世の中の変化に対応して、故障診断ソフトウェアをグローバルで刷新。
- 5 クリエイティブなCGで、トヨタグループの未来を切り拓く。
- 6 お客さまと一緒に、よりよいシステムを。アジャイルによるリーンなシステムを開発。

## コーポレート・ファイナンス分野

トヨタ自動車のコーポレート分野やトヨタファイナンスと一体となり、ITによる事業革新を実現する。

- 1 トヨタDNAをシステムで体现し、DX時代の変革を支える。
- 2 未来のあるべき姿へ向けて、販売店、レンタリース店の変革をDX推進で支援。
- 3 TOYOTA Walletの開発から改善に取り組み、ユーザーにとって使い勝手のよい決済アプリを。

## インフラ事業本部

オールトヨタのビジネスのコアとなるITインフラをグローバルレベルで提供し、DXを支援する。

- 1 オールトヨタのビジネスを支える、オリジナル共通プラットフォームの提供。
- 2 ブロッカーではなくイネイブラーとして、DXを加速させるセキュリティの取り組み。
- 3 働き方改革に寄与する、AIを活用したバーチャルアシスタント開発。
- 4 利便性の向上に加え、セキュリティと接続性を確保した次期ネットワークの構築。
- 5 問い合わせ対応をナレッジ化して共有し、OA関連の困りごとをスピーディに解決。

## 管理本部

経営層の迅速かつ正確な意思決定を支え、現場および従業員がパフォーマンス高く安心して働ける環境を提供する。

- 1 期待値
- 2 中計達成に向けた全社向け重点施策
- 3 機能とミッション

## 最新事例紹介

### 新規事業開発本部

「ITシンクタンク」として先端技術の研究開発をおこない、技術提案や自らの技術力向上に取り組む。

## 1 世界初の車載電池の劣化度診断技術で、電池の再利用や、よりよいサービスを。



ハイブリッド車、電気自動車の普及により、ますます重要となるのが、電池の再利用です。電池が再利用できるかどうかを正確に診断するためには通常丸1日かかります。NGの可能性のある電池は極力省いて診断するために事前に短時間で簡易的な診断をおこない、OKとなった電池だけを診断する技術が求められています。そこでトヨタシステムズが開発したのが、電圧の変動を解析し、3分で90%の精度を実現する世界初の簡易診断技術です。ニッケル水素電池とリチウムイオン電池のどちらにも対応可能で、特に中古市場でほぼ100%を占めるニッケル水素電池の劣化度を診断する技術はほかにはありません。現在はグローバルに広げていくため、海外企業との協業体制を進めています。また、電池を取り外すことなく、クルマ丸ごとで劣化を診断できる技術を確認させ、ディーラーでの使用も目指しています。

## 2 高齢ドライバーの運転支援のために、運転行動から認知機能の低下を検出。

どこよりも早く社会の高齢化が進む日本において、高齢者ドライバーに特化した運転支援の技術開発、実証実験に取り組んでいます。自動運転や歩行者検知などの運転支援技術が存在するなかで、対高齢者ということで認知にフォーカス。繰り返し行動の多い運転において、クルマに溜められたブレーキなどのデータ、ドライブレコーダーを解析し、認知や運転能力の低下を機械学習で見出します。本人や家族に運転に対する注意を与えたり、通院を促すことで、安全に運転を続けていただくことや、納得のうえでの免許返納につながればと考えています。また、タクシー、トラック、バスなどの職業ドライバー不足の解決の一助になる可能性もあります。今後も、運送・運輸会社や、自治体、医師の方々にヒアリングを重ねながら、よりよい技術を開発していきます。



最新事例紹介

## エンジニアリング分野

最高のITサービスと技術で、  
トヨタ自動車のクルマづくりを支え、  
モノづくりの未来をつくる。

### 1 機械学習で塗装品質を塗る前に推定。 世界初の技術で新色を素早く世の中に。



色はクルマの第一印象となる、とても重要な要素。しかし、キレイに塗れるかといった品質の安定性や安全性、耐久性など、これまで「塗ってみたいとわからない」といわれていました。塗って、失敗して、試行錯誤を繰り返していたものを、デザインから製造にいたる全工程でデータを集め、機械学習により素材の組み合わせなどから塗装品質を推定する技術を世界で初めて開発。開発期間の大幅な短縮に成功しました。開発過程では残されたデータだけでなく、生産現場で意見交換を繰り返し、追加で実験をおこなったり、知見を得ることで、徐々に精度の向上を実現。実際のモノづくりに寄り添ったシステムとなりました。今後は、防錆や樹脂といったほかの材料分野への展開を予定しています。

### 2 xRを活用した次世代のモノづくりで、 さらなる生産性向上の実現へ。

トヨタグループ各社の開発部門や製造部門のニーズに合わせて、AR、VR、MRなどの技術提供をおこなっています。3Dモデルを活用すれば、試作車や新規設備の製造前での検証が可能です。ARを例にあげると、実際の工場ではスマホやタブレットをかざすだけで原寸大の設備データが映し出され、周辺の設備や通路に干渉しないかなどを事前に確認できるので、手戻りをなくし期間やコストの削減につながります。また、ビデオ通話中に相手の空間にアノテーションを書き込めるアプリや、手順とカンコツを示し作業をサポートするアプリなど、幅広い活用がおこなわれています。さらに生産性の向上をはかるため、将来的には機械学習と組み合わせるなどxR活用の進化を目指しています。



### 3 丸1日必要だったCAEを、 独自技術の機械学習で数秒に短縮。



車両開発の過程でおこなわれる、大規模なCAEによる空力・衝突・耐久性などの性能解析。不可欠な工程ですが、スーパーコンピューターでも丸1日必要です。今回、トヨタ自動車の蓄積された数多くのデータから、機械学習により30秒以下のごく短時間で空力を予測できる技術を開発。機械学習に向かない三次元形状を独自の形式で縮退することによって処理をおこない、特定の条件下であれば実用可能な精度での予測を実現しました。CAEの事前検証として使用することで、設計・計算・分析のサイクルを大幅に短縮することが可能です。CADデータなどを入力するだけなので、デザインや企画の段階で利用することにより、手戻りを減らすことができます。同じ仕組みで流体の予測もできますが、ほかの現象にも横展開できるようにさらなる技術向上を進めています。

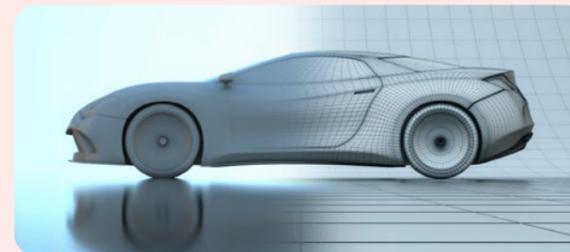
### 4 クルマや世の中の変化に対応して、 故障診断ソフトウェアをグローバルで刷新。

クルマのコンピューターと通信し、電子システムの故障診断、個人向けカスタマイズ、交換後の初期設定などをおこなう、ディーラーにとって不可欠なソフトウェア。さらなる変化、高度化に素早く対応すべく、内部構造の刷新をおこないました。作業時間の短縮や確実な故障診断、セキュリティ強化に加えて、素早いソフト更新も可能に。開発費を抑えながら新車や変更要望にすぐ対応することができます。全世界の販売店で使われるソフトウェアであるため、海外事業体も巻き込んだ要件調整をおこない、各地域独自のニーズも反映できる仕組みになっています。今後は、APIの公開により、アフターサービス、車両開発のDX支援にも取り組んでいきます。



### 5 クリエイティブなCGで、 トヨタグループの未来を切り拓く。

映像などのコンテンツやモノづくりの世界で、これまで以上にCGの活用が進んでいます。私たちはクルマのCG制作を通して、高精細画像、動画、VR、AR、コンフィグレーターなどのコンテンツを美しく、正確につくる技術を培ってきました。これからは、その技術をさまざまな分野に応用し、自動車産業はもちろん、エンターテインメントや人とのコミュニケーションといった幅広い領域で今までにないユーザー体験を提供していきます。未来に向けて、私たちの可能性は無尽大です。



### 6 お客様と一緒に、よりよいシステムを。 アジャイルによるリーンなシステムを開発。

変化のスピードの速い現代では、開発方式も変化を求められています。従来は、お客様に要望のヒアリングをしてから、場合によっては2、3年かけてシステム構築をすることもあり、その間に世の中に変化が起き、完成したころにはすでに要望が変わっていることもあり。そこで、より変化に強く、実用性の高いシステムにするため、近年はアジャイルという方式での開発に取り組んでいます。アジャイル開発では、要望を出すお客様も5、6人のチームの一員として開発に参加いただくことで、変化を要望に組み込むことが可能です。ローコードツールなども活用し、目に見えるものを素早く開発し、お客様と開発者が同席にすることで、議論・提案・確認・選択が活発におこなわれ、その場での即決が可能です。開発者も自ら考え、効果ある機能のみを開発するマインドが醸成されます。アジャイルの主要な開発方法であるScrumはトヨタ生産方式が源流です。アジャイル開発を手の内化し、ブラッシュアップし、リーンなシステム開発を実現していきます。

## コーポレート・ファイナンス分野

トヨタ自動車のコーポレート分野やトヨタファイナンスと一体となり、ITによる事業革新を実現する。

### 1 トヨタDNAをシステムで体現し、DX時代の変革を支える。

全世界でおこなわれるトヨタ生産方式によるモノづくり。それを支えるグローバル共通な基幹アプリケーションの開発・維持をおこなうのが管理・製造IT本部です。トヨタ生産方式はもちろん、改善や原価管理、人材育成などのトヨタウェイ、業務プロセスを理解しているからこそ、トヨタ自動車のDNAをシステムでも体現してきました。現在、DX化の時代を迎え、この大きな変化に対応できるIT環境が求められています。2025年の崖といわれるように、トヨタ自動車にもモダナイゼーションが必要な古いシステムが相当数存在しています。肥大化、複雑化したシステムをスリム化、シンプル化して、ユーザーの利便性にも貢献しなければなりません。大幅に刷新するのか、レガシーを活かすのか、トヨタ自動車側の事情や要求に応じて、システムごとに順次対応をおこなっています。データをうまく活用するためには、社内の情報活用格差の解消も欠かせません。これまではセキュリティの観点で、情報はクローズな環境に置かれていました。安全性を担保したうえでだれもがアクセスできる環境を整え、蓄積されたデータから付加価値を生み出せるツール提供に取り組んでいます。そして、自動車メーカーからモビリティカンパニーへの変革を支えるソリューションとなるシステム、グループ各社の競争力強化や協業による付加価値づくりを実現するシステムの提案にもチャレンジしています。また、これらの目標達成のための土台となるのが、人材育成です。充実したスキルアッププログラムに加えて、現在はトヨタ自動車の業務理解やクラウドを前提としたアジャイル開発を重点にトレーニングしています。ただ技術を磨くだけでなく、お客さまに対して最適な技術を提案し、これからもトヨタ自動車のモノづくりを支えていきます。

#### MISSION

トヨタ生産方式、トヨタウェイなどトヨタDNAを体現し、グローバルオペレーションを支える基幹アプリケーションの提供

#### CHALLENGE

基幹システムのモダナイゼーション



莫大な数のシステムのスリム化、シンプル化、UI・UX向上

データオープン化基盤



だれもがデータにアクセスすることで、情報活用格差を解消

モノづくりは人づくり

DX時代にも通用するIT人材育成体系の充実。

新しいソリューションの提供



モビリティカンパニーへの変革を支える新しいアプリケーションの提案

各社の競争力強化への貢献



トヨタ自動車だけでなく、グループ全体へのソリューション提供

## 2 未来のあるべき姿へ向けて、販売店、レンタリース店の変革をDX推進で支援。

トヨタ自動車がモビリティカンパニーへとシフトするなか、お客さまとの接点である販売店やレンタリース店も変革が必要です。

#### 〈現状〉現在提供しているシステムと仕事の特徴

そこでトヨタシステムズは、販売店の営業員がお客さまへ最適な提案(購入時期や車種など)ができるような営業支援システムを構築、また、購入後も安心・安全な運転ができるよう、部品の劣化予測や故障診断などのシステム構築をおこなってきました。販売店がお客さまへ提供する価値がさらに向上するよう、現地現物として販売店へ外向き業務理解を進めると同時に、アジャイル開発のなかで、常に最新のデジタル技術活用にチャレンジしています。

#### 〈今後〉未来に向けた使命と方向性

今後は、さらに、お客さまの生活環境(家族構成や居住地域)や趣味嗜好などの情報から、最適なモビリティ活用(購入、レンタル、カーシェア)を提供し、自動運転の進化にともない世の中のさまざまなサービスがモビリティにつながるようなシステムづくりの構想を進めています。お客さまにとって、モビリティでの移動がより快適で有意義になるよう、DX推進により貢献していきます。

## 3 TOYOTA Walletの開発から改善に取り組み、ユーザーにとって使い勝手のよい決済アプリを。

トヨタ自動車の決済アプリであるTOYOTA Wallet。その企画・開発をトヨタファイナンスとトヨタシステムズでおこなっています。多くの決済サービスとは思想が異なり、多彩な決済手段との紐付けや、モビリティサービスと飲食などの連携サービスを1つのアプリとIDで使用できることで、ユーザーとサービスをつなぎ、もっと便利にすることを目指しています。そして、このアプリは販売店以外でもトヨタ自動車とユーザーとの新しい接点を生み出します。データの活用からよりよいサービスづくりに取り組み、ユーザーが商談内容である契約・支払方法を選択可能にします。また、販売店を登録することで、

コミュニケーションの手段としても活用でき、トヨタ自動車ユーザーにとっての利便性にもつなげていきます。私たちは立ち上げ時からトヨタ自動車、トヨタファイナンスとひとつになり、外部の会社とも協力しながらプロジェクトを動かしています。特に重視しているのが、スピード感とコミュニケーション。市場の変化に対応するために、3社が同じ目線で日頃から意見を交わしながら、仕様の改善などを重ねています。今後もユーザーのメリットや使い勝手を見つめ、トヨタ自動車にとっても価値のあるものを目指して、アプリの改善をおこなっていきます。



最新事例紹介

## インフラ事業本部

オールトヨタのビジネスのコアとなる  
ITインフラをグローバルレベルで提供し、  
DXを支援する。



### 1 オールトヨタのビジネスを支える、 オリジナル共通プラットフォームの提供。

オールトヨタの基幹システム・業務アプリケーションを稼働させるオリジナル共通プラットフォームをプライベートクラウド・サーバー上に構築しています。これにより、「高品質な」ITインフラを「早く」「安く」提供できるようになりました。自社で管理するプライベート環境では各社でサーバーを導入、構築したりと相応の期間や投資が必要になります。また、パブリッククラウドは柔軟に利用できるものの、プライベート環境と同等の安全性や継続性を担保するための工夫が必要になります。トヨタ自動車と一体になって事業を推進しているからこそ、ユーザーに最適な提案を実現することができています。今後はプライベートとパブリックの両環境の併用により、プラットフォームをより効率的に利用できるようにする活動にも取り組んでいきます。



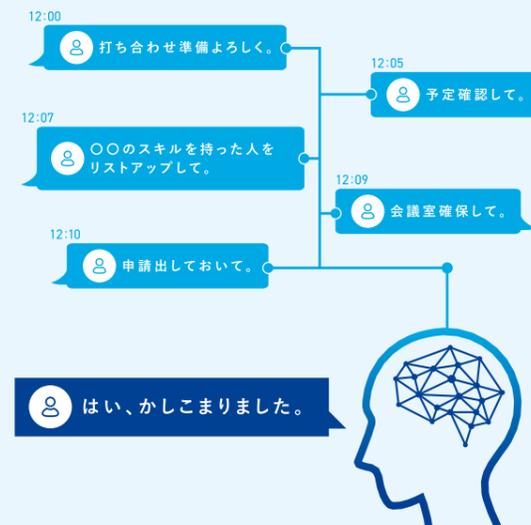
### 2 ブロッカーではなくイネイブラーとして、 DXを加速させるセキュリティの取り組み。

働き方改革やDXの推進などによってビジネス環境は大きく変化し、クラウドを利活用した変革が加速しています。一方、クラウド利用の増加にとまじり、設定ミスによる意図せぬ情報漏洩など、クラウド特有の事故が世間において多数発生しています。事故を回避するため、クラウドを使わせない、使いたくないとなると、この変化に対応できません。効果的・効率的なセキュリティ対策は、DXを加速させる大きな要素です。具体的な取り組みとして、クラウド利用に関する承認フローを定め、個別ガイドラインを作成し、審査を実施。利用開始後もガイドラインの遵守状況や不適切な点がないかを常時診断することで、最適な環境を維持し続ける体制を整えています。制限ではなく、正しく安全な利用を支えるためのセキュリティ部隊であり続け、オールトヨタ、さらには自動車業界全体のセキュリティ強化を推進していきます。



### 3 働き方改革に寄与する、 AIを活用したバーチャルアシスタント開発。

圧倒的生産性の実現を支援するバーチャルアシスタントの開発に向け、AIの活用に取り組んでいます。目指すのは、一人ひとりに寄り添うバーチャルアシスタント。煩雑で雑多な作業をAIが人に代わって処理し、従業員には本来の業務に集中してもらいたい。そんな思いからプロジェクトはスタートしました。現在はFAQチャットボットとして社内のポータルサイトに導入されており、社内システムの使い方や各種申請などに関する疑問の早期解決をアシストしています。さらに今後、より役立つアシスタントになれるよう、部署を超えた協力を得て、日々改善をおこなっています。スケジュール調整や会議設定の自動化、社内の有識者の検索などの機能を追加し、働き方改革に寄与していきます。



### 4 利便性の向上に加え、 セキュリティと接続性を確保した次期ネットワークの構築。



働き方改革、クラウドの利活用、グループ協業など、さまざまなビジネス環境の変化に対応すべく、利便性の高いインターネットを用いた新たなネットワーク形成に取り組んでいます。これまではどこから接続しても社内ネットワークを経由する構成になっており、リモート会議で音声途切れる、クラウドサーバーのレスポンスが悪いなど、不便が生じていました。そこで、リモートアクセス、クラウドプロキシ、SD-WANの3つの仕組みを導入し、セキュリティと接続性を確保した環境の構築を目指しています。まずはトヨタグループの中心となる会社から導入を進め、次に販売店なども含むオールトヨタへ、そして、いずれは自動車業界全体も視野に入れ、継続的にネットワークデザインの検討をおこなっていきます。

### 5 問い合わせ対応をナレッジ化して共有し、 OA関連の困りごとをスピーディに解決。

日々の業務において、OA関連の問い合わせが多く発生しています。そこで、トヨタグループでは共通の環境を使用していることも多いため、FAQを共有ナレッジとして整備し、チャットボットなどでの自己解決率向上やサポートスタッフの対応時間短縮を実現しました。実際の運用としては、サポートを提供している各社からの問い合わせ対応ログを①「問い合わせ内容も回答も共通なもの」、②「問い合わせ内容は共通だが回答が異なるもの」、③「各社固有のもの」に層別、①②を共有ナレッジとして毎月追加していきます。加えてサポート未提供の会社へのコンタクトセンター設置提案も進めており、これらの活動をトヨタグループ全体に広げていくとともに、さらなる効率化のためOA環境の共通化も視野に入れた提案をおこなっていく予定です。

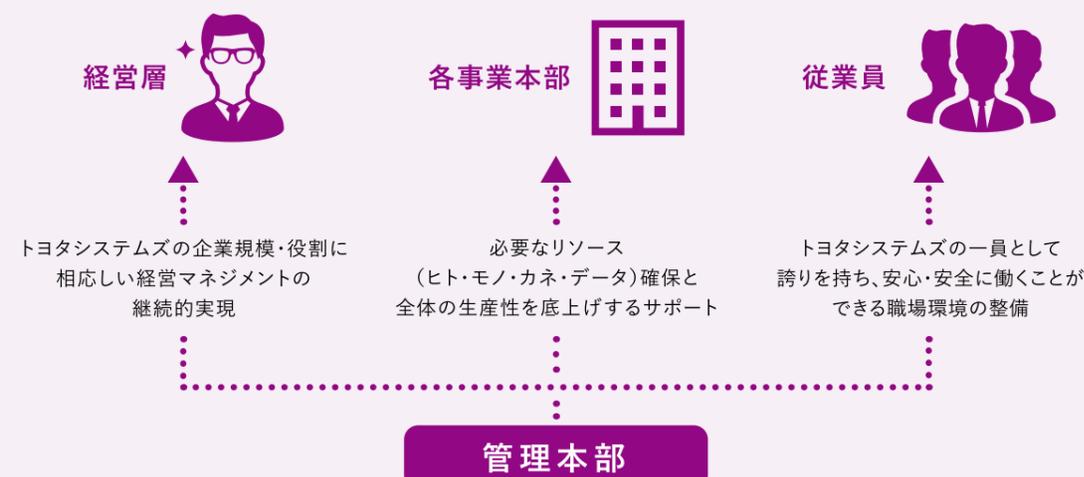


最新事例紹介

## 管理本部

経営層の迅速かつ正確な意思決定を支え、現場および従業員がパフォーマンス高く安心して働ける環境を提供する。

**1 期待値** = 「経営層」「各事業本部」「従業員」をお客さまと定義し、それぞれの期待値達成に向けた取り組みをおこなう



## 2 中計達成に向けた全社向け重点施策

ヒト

経営戦略と一体となり内外リソースの「量の確保」と「質の向上」を加速

モノ

「新しい働き方」を推進するオフィス環境に進化させることで内製強化に貢献、高まる企業価値を社外に発信

カネ

データをもとに価値ある「情報」を発信し、収益構造の変化に対応する経営層の意思決定をサポート

**ベース** 事業活動の土台を『トヨタシステムズ(会社)』と『従業員(個人)』がともに構築する

**間接業務の効率化**

各事業本部との業務分担を見直し低減策を立案、実施

## 3 機能とミッション

### 経理機能

会社の活動(お金に関わるもの)を正確に記録(記帳)するという会計の番人としての役割を果たしつつ、経営の羅針盤となる経理へ。

精度を高めた収益情報(実績・見通し)をベースに、経営指標やKPIの設定・フォローを踏まえて、会社の進むべき方向を経営層と議論しています。収益情報の精度や資産管理などの意識向上にも役立つ会計リテラシー教育を実施するとともに、収益管理プロセスの標準化や整備、新規事業展開のリスク対応など、社内関係部署を巻き込んだ取り組みを推進しています。



### 人事機能

変化の激しいビジネス/IT環境下を生き抜き、自ら未来像を描き、仲間とともに実現していくことのできる力強い「人」と「組織」の育成・構築に貢献。

IT会社の資産は「ヒト」。従業員が命といっても過言ではありません。その従業員を、「ワーク(チャレンジ)」と「ライフ(安心)」両面から支援し続ける。トヨタシステムズに入社し、働いていることに喜びと誇りを感じ、従業員全員が安心してイキイキと働ける環境をつくるのが人事機能のミッションです。従業員の幸せと会社の発展に向け、採用、研修・育成、配置・組織、労務、処遇、福利厚生、健康施策、両立支援などの人事諸施策を日々考え抜き、実践しています。



### 総務機能

戦略的な広報活動により、知名度・企業イメージを向上させ、業績の拡大、優秀な人材の確保、従業員満足度の向上に貢献。

新しい働き方を実現するため、拠点の新設や改築の際には「出社しなくなるオフィス」、「効率よく業務を進められるオフィス」を目指し、デザインされた空間に「個人集中ブース」や「コミュニケーションスペース」など目的別に設備を最適配置しています。また、労働災害・交通事故撲滅活動、コンプライアンス推進活動を通して、安心して働くことのできる職場づくりを進めています。社会貢献活動として、福祉施設でのパソコン教室開催、リユースPCの寄贈、海岸清掃、フードドライブなど従業員とその家族が参加できる活動を推進。トヨタシステムズの社会課題解決の取り組みは「SDGs TS report」で紹介しています。



### 調達機能

パートナーシップ構築・強化により高いパフォーマンスを実現。

パートナー各社とトヨタシステムズの事業方針、計画などを共有しながら一体活動を強化し、システム開発やサービス提供の品質向上・コスト低減・納期遵守などに貢献しています。また、受注→発注→納品までのステップを着実かつ効率的に実施できるよう、各事業本部と連携して業務の見直し、システム活用や改善などを推進しています。



## 会社概要

COMPANY PROFILE

社名 株式会社トヨタシステムズ

名古屋本社 〒450-6332  
名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋32F  
TEL : 052-747-7111 FAX : 052-747-5222

東京本社 〒108-0075  
東京都港区港南1-8-23 Shinagawa HEART14F

設立 2019年1月1日

資本金 54.5億円

従業員数 3,192人(2023年4月1日時点 派遣社員含む)

売上 1,753億円(2022年度実績)

関係会社 トヨタ自動車株式会社  
トヨタファイナンス株式会社

出資比率 トヨタ自動車株式会社 100%出資

### 経営

代表取締役社長 北沢 宏明 常勤監査役 伊藤 康博

取締役 細川 昌宏 監査役 堀 立宏

取締役 酒井 誠二

取締役 加納 尚

取締役(非常勤) 日比 稔之

### 本部長

新規事業開発本部 川添 浩史 エンタープライズIT本部 伊藤 雅史

戦略企画本部 塩谷 和也 セールス・カスタマーIT本部 浅利 涉

メカづくりIT本部 真鍋 秀章 ファイナンスIT本部 寺内 勝彦

制御・解析本部 伊藤 慎吾 アプリインフラ本部 青木 健二

PLM・CAD本部 伊藤 慎吾(兼) インフラ事業本部 加藤 雅章

管理本部 酒井 誠二

### 主要取引先

株式会社豊田自動織機 / 愛知製鋼株式会社 / 株式会社ジェイテクト /  
トヨタ車体株式会社 / 豊田通商株式会社 / 株式会社アイシン /  
株式会社デンソー / トヨタ紡織株式会社 / トヨタ不動産株式会社 /  
株式会社豊田中央研究所 / トヨタ自動車東日本株式会社 / 豊田合成株式会社 /  
日野自動車株式会社 / ダイハツ工業株式会社 / トヨタホーム株式会社 /  
トヨタ自動車九州株式会社 / トヨタモビリティ東京株式会社 /  
株式会社東海理化電機製作所 / フタバ産業株式会社 / 豊田鉄工株式会社 /  
愛三工業株式会社 / 林テレンプ株式会社 / 小島プレス工業株式会社 /  
トヨタ自動車北海道株式会社 / プライムアースEVエナジー株式会社 /  
トヨタ輸送株式会社 / トヨタモビリティサービス株式会社 / 株式会社FTS /  
大豊工業株式会社 / トヨタコネクティッド株式会社 ほか

## 国内拠点・営業所

DOMESTIC OFFICES

1 名古屋本社 〒450-6332 名古屋市中村区名駅1-1-1 JPタワー名古屋32F

2 東京本社 〒108-0075 東京都港区港南1-8-23 Shinagawa HEART14F

3 栄オフィス 〒461-0001 名古屋市東区泉1-23-22 トヨタホーム栄ビル7F

4 名駅オフィス 〒451-0045 名古屋市西区名駅1-1-17 名駅ダイヤメイトビル8F

5 高岳オフィス 〒461-0002 名古屋市東区代官町35-16 第一富士ビル8F

6 豊田オフィス 〒471-0027 豊田市喜多町1-140 ギャザビル5F

7 刈谷営業所 〒448-0025 刈谷市幸町2-5-7 NOMURA BLDG3F

8 大阪営業所 〒530-0012 大阪市北区芝田1-1-4 阪急ターミナルビル16F

9 九州営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-3-6 第三博多偕成ビル10F

10 東北営業所 〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-1-1 JR仙台イーストゲートビル2F

## 海外拠点

OVERSEAS OFFICES

1 ドイツ  
ベルギー  
イギリス Toyota Tsusho Systems EUROPE GmbH

2 シンガポール TOYOTA TSUSHO SYSTEMS SINGAPORE PTE. LTD.

3 タイ TOYOTA TSUSHO SYSTEMS (THAILAND) Co., Ltd.

4 インド TOYOTA TSUSHO SYSTEMS INDIA Pvt. Ltd.

5 インドネシア PT TOYOTA TSUSHO SYSTEMS INDONESIA

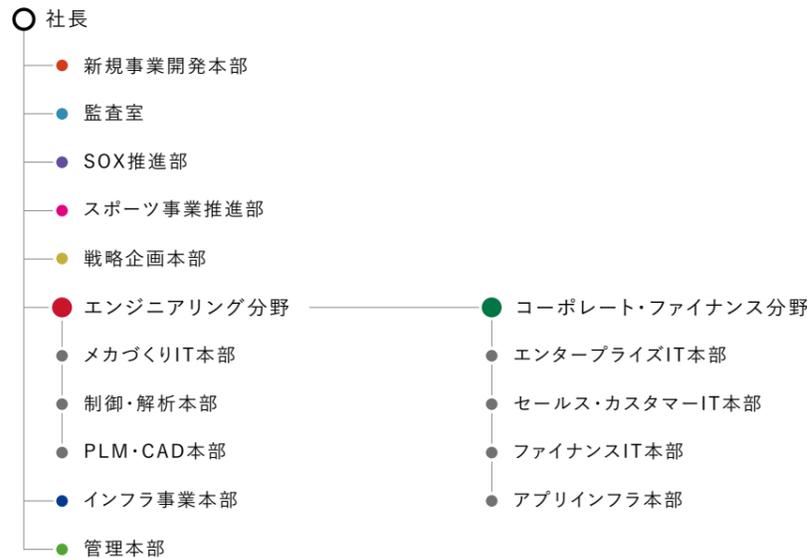
6 中国 TOYOTA TSUSHO SYSTEMS CHINA

7 アメリカ TOYOTA TSUSHO SYSTEMS US, Inc.

トヨタ自動車 海外各エリア総括管理会社

## 組織図

ORGANIZATION CHART





トヨタシステムズはB.LEAGUEに所属するプロバスケットボールチーム『アルバルク東京』を応援しています。

Welcome to  
IT company.

